

## 酒米品種「祝」の茎に蓄えられた炭水化物量を測定

米の登熟には、穂が出る前に茎に蓄えられた炭水化物と穂が出た後に葉で光合成された炭水化物が利用されます。したがって、よく充実した米を安定して生産するためには、これらの利用される炭水化物量が多くなるような栽培管理をする必要があります。

現在、京都府独自の酒造好適米品種「祝」について、この炭水化物量に着目した収量・品質改善のための試験を行っています。平成19年度には、担当者が九州沖縄農業研究センターにおいて研修を受け、炭水化物量の測定方法を習得しました。本年度は、その成果を活かして分析を実施しており、今後、「祝」の栽培方法改善へ向けて活用していきます。



酒米品種「祝」の茎に蓄えられた炭水化物量を測定する